

## SRA の 「どんどん先に進んでもらおう」 活動のご紹介

技術本部 方学芬

### はじめに

SRA では、先進的な技術と知識を有するスペシャリストの育成を目的として、技術をリードする人材育成投資プロジェクト STAR が 2007 年よりスタートしました。先進的な技術と知識を有するスペシャリスト育成を目的としています。先進的な技術に関心がある技術者が海外の技術カンファレンスに参加して情報を収集する活動や新しい技術を試すチャレンジ活動を行っています。最近では、クラウド技術を社員があまねく触れるための学習環境を提供し、一步先に進める「superb」活動も展開しました。この記事では STAR&superb の活動をご紹介します。

### 目次

- ✓ STAR 活動について
- ✓ superb 活動について
  - Azure 社内学習環境
  - AWS 社内学習環境
- ✓ おわりに

## STAR 活動について

---

STAR (Strategic Team for Advancement Roundup) 活動は、①国内外技術カンファレンスに参加し、先進的、体系的な知識を習得すること、②新しい技術を検証するためのチャレンジ活動を行うことを目的としています。カンファレンス参加後やチャレンジ活動後に「SRA 技術フォーラム」<sup>1</sup>を通じて、社員への情報の共有とビジネスへの活用を図ります。

### i. 最新技術情報の収集と情報共有活動

2007 年から数多くの技術者が海外や国内の技術カンファレンスに参加してきました。技術の先取りを狙って、下記の海外カンファレンスに参加しました。

1. 「Software Security Summit」
2. 「Euro SPI」 \*\*
3. 「SDBP(Software Development Best Practice)」 \*
4. 「Software Development Expo West」 \*
5. 「Software Test & Performance Conference」
6. 「JavaOne」 \*\*\*
7. 「 OOPSLA (Object-Oriented Programming, Systems, Languages & Applications)」
8. 「QCon San Francisco」 \*
9. 「Software Product Line Conferences」
10. 「Workshop on the Future of Software Engineering Research」
11. 「Embedded Systems Conference」 \*
12. 「Cloud Connect」
13. 「NASA Formal Method Symposium 」
14. 「Interop New York」
15. 「The Android Developer Conference」
16. 「Qt Developer Conference 」 \*\*\*
17. 「Spark Summit」
18. 「Google I/O 」 \*\*

\*) 2 回以上 \*\*\*) 5 回以上 \*\*\*) 毎年 累計 50 人次ほど参加しました。

---

<sup>1</sup> 「SRA 技術フォーラム」とは、月 1 回程度社員が自由に集まって、実務に役立つ技術や先進的な技術情報をお互いに紹介しあう会です。

SRA 技術フォーラムは、2007 年からこれまで 113 回開催されています。技術フォーラムでの発表資料は社内で公開されており、社員であればいつでも閲覧できるようになっています。

### ii. 先進的な技術を検証するチャレンジ活動

活動に参加するメンバーは、チャレンジしたい技術テーマをもって、自ら手を動かす活動を行っています。メンバーそれぞれが、興味のある分野の知識を深耕し、プロトタイピングにより経験値と知見を蓄積するだけでなく、実際のソリューションと業務でも活用しています。

### iii. 活動参加メンバーのキックオフ

活動に参加するメンバーは年度の最初にキックオフ・ワークショップに参加して、一年間の活動目標を話し合います。写真はその風景です。

ワークショップの目的	なぜここにいるのか?
<p>「技術のSRA」を持続していくために、  <b>SRAグループの技術者の知識や知見を、</b>  <b>いかにしてビジネスに展開していくか、</b>  <b>いかにして組織間で共有するか、</b>  <b>について意見交換を行い、各自の活動に生かす</b></p> <p><b>STARで得た経験や思いを共有する</b></p>	



活動に参加したメンバーは現場で技術リーダーとして活躍しています。

## +superb 活動について

superb (Sra UPrising Endeavour for Research and Business) 活動は、新しい技術の底上げを狙い、社員が自発的に成長する機会をサポートする活動です。具体的には、Azure と AWS の社内から学習できる環境を作り、社員がクラウドに触れながらクラウドコンピューティング分野の基礎的知識や最新クラウドサービスを学習します。2019 年度に、まず、Azure 社内学習環境を開設し、続けて AWS 社内学習環境を展開しました。

## Azure 社内学習環境

---

Azure は Microsoft のクラウドコンピューティングプラットフォームです。ソリューション構築やビジネス目標の達成を支援する様々なサービスを提供しています。Azure で AI サービスと AI ソリューションを構築する知見を得るためには、Azure に気軽に触れることが重要であることから、社員が自由に Azure を学習・利用できる社内環境を構築することになりました。以下の点を環境構築の際に重視しました。

1. 利用者が気軽に Azure を利用できること
2. まず、Azure の AI、機械学習関連のサービスを対象とすること

下記の案で Azure 学習利用環境構築運用がスタートしました。

### ◇ Azure AD の利用

社員一人一人が Azure 利用のアカウントを申請するのではなく、Azure AD を利用して、全社員のアカウントを一括作成しました。

### ◇ 学習サブスクリプションの契約

Azure サブスクリプション(テナント) とは、Azure を利用する際の契約単位です。利用料金はサブスクリプション単位で請求されます。

### ◇ 利用開始後の運用

現在は 60 名ほどの社員が Azure を利用しています。利用開始時に利用者に注意事項を配布するとともに、利用者が有償のクラウドでのリソースとサービスを利用できるように、課金情報やリソースの利用状況を一元管理しています。

## AWS 社内学習環境

---

STAR 活動の中でも、「AWS Summit」や「AWS 構築とシステム操作トレーニング」などの Amazon が主催するイベントに参加し、最新情報をキャッチしたり、クラウド環境検証したりという活動を行っていました。2020 年度よりさらに技術者のクラウド技術への関心が高まり、AWS 認定資格者<sup>2</sup>は増えつつありました。実践的に AWS を触れたいという社員からの声を応える形で、AWS 社内学習環境を構築しました。

---

<sup>2</sup> 2023 年 1 月の時点で SRA の AWS 認定資格者数 103 名、アソシエイト/プロフェッショナル/専門知識の資格数 96 になりました。

#### ◇ AWS 社内学習環境

SRA にはクラウドソリューションを提供する部署「アドバンスクラウドエンジニアリング事業部」があります。AWS の学習利用に必要な環境をアドバンスクラウドエンジニアリング事業部と連携することにより、社員であれば AWS 学習環境の利用申請を出すだけで AWS のリソースとサービスをすぐに利用できる仕組みを構築しています。

#### ◇ AWS 利用開始後の運用

リソースの消し忘れや第三者によるアカウントに不正利用の対策等々について、予め利用者に利用手順と注意事項を配布しています。これにより、利用者は安心してクラウドでのリソースとサービスを利用することができます。

## おわりに

STAR&superb 活動は、ソリューションやビジネスの提案・実施に役立つ情報収集を行うことができ、専門技術を深耕するとともに周辺技術の動向を把握することができ、また、体系的な知識を習得や実践することができる、技術者には好評です。常に最新の技術を活用し、お客様の課題・社会課題を解決できるように、自分達の技術力を向上していきたいと思っている社員を SRA はサポートし続けています。SRA の「どんどん先に進んでもらおう」活動も継続します。

### GSLetterNeo Vol.175

2023年2月20日発行

発行者 株式会社 SRA 技術本部 先端技術研究室

編集者 熊澤努 方学芬

バックナンバー <https://www.sra.co.jp/public/sra/gsletter/>

お問い合わせ [gsneo@sra.co.jp](mailto:gsneo@sra.co.jp)



〒171-8513 東京都豊島区南池袋 2-32-8

夢を。



夢を。Yawaraka Innovation  
やわらかいのべーしょん